

令和 6 年第 2 回 沼津市大岡地区連合自治会

防災講習会（全 2 回） 「～みんなで作る避難所とは～」

日時：7 月 7 日（日曜日） 大岡地区センター 2 階会議室

主催：大岡コミ消防防災部・女性部

参加人数：66 名

講師：NPO 法人日本沼津災害救援ボランティアの会(NVN)副理事長 石川 學 氏

はじめに上田連合会長から伊豆半島の 7 市 6 町の首長会議が 6 月 7 日、伊豆市内でひらかれ、「能登半島沖地震」を契機とした防災対策や、孤立化を防ぐための道路整備、それに観光振興他、知事に要望。また会議では、伊豆半島の課題について意見交換し、「孤立集落にもスポットを当てて避難や救援物資の受け取りがで



上田連合自治会長



講師：石川 學 氏

きる体制を整えてもらいたい」とか、「巨大地震が発生すると伊豆半島先端の復旧・復興は遅れると思うので、県外からの支援体制も構築してもらいたい」という要望がだされた。また、医療についても「災害時には医療体制を維持するのがもっと厳しくなる。広域的な観点から物事を進められる県の力を最大限に発揮してもらいたい」との意見がでた。今日は、三校の避難所運営の話し合いで 9 月の防災訓練には中学生も参加しますので意見交換お願い致します。

【過去の災害について】

■(伊豆沖地震)1974 年 昭和 49 年 5 月 9 日（木曜）午前 8 時 33 分。最大震度 5（石廊崎）震度 4（三島）M6.9



中木地区・伊豆半島沖地震・慰霊碑 2017 年 11 月撮影

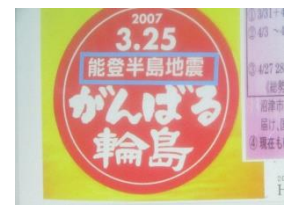
静岡県伊豆半島沖 5km で発生した地震。

賀茂郡南伊豆町の中木地区を中心に大きな被害をだした。

静岡県の石廊崎測候所(南伊豆町)で最大震度 5 を観測し、死者 30 名、全壊 134 棟など大きな被害をだした。この地震以降、伊豆半島付近の地震が活発になり 1976 年に河津地震(M5.4)、1978 年に伊豆大島近海の地震(M7.0)が発生している

■(七夕豪雨)1974 年 7 月 7 日(日)～8 日(月)。台風と梅雨前線の影響で、県内を非常に激しい雨が襲いました。静岡市では 24 時間の雨量が観測上最も多い 508 ミリに達し、巴川や安倍川など河川の氾濫が相次ぎました。県内では 44 人(※内 35 人が土砂災害)が死亡、8 万棟以上が浸水する甚大な被害となった。大岡地区では黄瀬川大橋上流で決壊して木瀬川・平和郷が浸水。

■(「みんなで作る避難所とは」)能登半島地震の被災者の支援しようと、静岡県沼津市の NPO 法人「日本沼津災害救援ボランティアの会(NVN)」が同市大手町の仲見世商店会で募金活動しました。地震翌日の 2 日から活動を始めた。NVN は、東日本大震災などでも継続をしてきた。石川 學さんは「物資も自分が被災をしたときに必要なものを持ててきてくださいと呼びかけています」。他ミカンの皮にメッセージを書いて送りました。



氷見体育館

避難所では「土足厳禁」が原則。健康面についての配慮が必要。

実際に地震発生ときの映像 1 月 1 日氷見市幸町の能登半島発生後、大勢が避難した氷見校体育館の映像。

避難は**住宅避難**を継続することが基本です。震災では、多様な避難者がいままで、住宅避難が当たり前です。身体に支障を持っている方を配慮して、避難所を運営しなければなりません。**自分たちが当たり前だと思っていることが、当たり前では無い。**そういう方たちがたくさんいることを頭に置いて、避難所運営をしなければならない。家族、地域自主防・学校・市の行政・いろいろな人の「**ネットワーク**」が大切、民間企業の人にも協力してもらうことが重要。避難所の環境の改善が必要、環境が悪ければ、関連死が増える。



輪島中学校ダンボールテント

ボランティアは避難所の中で、動いてくれる避難者のボランティアを募集し、避難所には外国人もいれば旅行者、お年寄りもいれば、赤ちゃんもいます。例えば福祉士資格を持っているか・介護ヘルパー資格を持っているか、その人達に協力してもらってどのような支援をしたらよいか聞いて運営する。避難所には、性犯罪が横行しています。自衛隊より早い窃盗団、ボランティアより早い詐欺団がくる。地域のボランティアの人がビニールカーテン付けるのにも、そういった事も運営の中に取り入れる。

次にトイレの問題です。トイレには必ず担当者を置きましょう。トイレでの性犯罪防止のため、できれば若い男性が良い。また右の写真のような沼津市簡易トイレを各自治会でも用意し、個人では簡易トイレセットを準備しましょう。



沼津市簡易トイレ



簡易トイレセット

同じダンボールを使ってイス・ベットの作り方の実演を行いました。来場者カード・同居家族構成の記入は、経験上ハガキサイズで行うことが非常に便利。



同じダンボール使ったイスの実演

■(避難所解説及び、大岡中中学生の避難訓練参加対応について)

1、今回の訓練を行う上で大岡中学校に伝えてある事。

① 避難所で一晩過ごすための支度をしてきてください。

※何が必要かは、自分で考える。(貴重品は持たない)

② 集合場所は、各自治会の一次避難所。(初めに集まる場所)直接体育館に来ない。一次避難所がわからない時は、自分で調べる。

2、大岡中学校からの依頼事項

「避難所カード」というものを学校が作成し、訓練時に生徒が各自持参するので、自治会ごとに回収し、後日提出してほしい。



生徒一人分のスペース 2m×1m

3、今回の訓練内容

① 受付を作り、既設トイレを使用不可する

必要なもの：開設キット、来場者カード、筆記用具。

中学生：受付体験をしよう。

流れ：場外で来場者カードを配布し、場外で記入してもらったものを受付に提出して、避難所に入場しよう。

② 携帯トイレの設置、使用訓練

必要なもの：携帯トイレキット、水、ゴミ箱

中学生：設置、使用体験をしよう。

③ 防災倉庫、備蓄品の確認

必要なもの：配置図、備蓄日リスト

中学生：在庫チェック他。



大岡中学校工区自治会役員



大岡小学校校区自治会役員



大岡南小学校校区自治会役員

④ 中学生が持参した一泊分も荷物の検証

必要なもの：養生テープ、メジャー

流れ：パーソナルスペース(2m×1m)を養生テープで作り、荷物を置き、横になる。



防災講習風景



各地震・災害時の活動及び新聞記事

【9月1日防災訓練に中学生が参加する意義】

災害時は個人・地域の対応力の大小が、その地域の被害軽減に大きく影響する。したがって、防災活動は地域が基盤となるが、災害を自分のこととして捉え、かつ主体性を持つことが活動のポイント。また、**昼間は勤労者等が不在であるため、基礎体力が備わっている中学生の力が欠かせない**。活動の継続性という視点からも、若い世代が防災活動に参加することが重要と考えられます。

災害が発生すれば、地域単位の対応が必要となる。**防災訓練等に参加している人達の防災意識は高いが、防災訓練に参加している人達は限られており、大半が無関心である**。いかに無関心層に防災意識を根付かせ、共助の体制を強化していくことが重要な課題となる。日常生活の中で防災活動を見える化し、防災意識が根付くような工夫が必要。

【避難所の収容人数】

災害が起きた時、どの程度の人が避難してくるか正確な予想は困難です。避難所の想定収容人数の限度を超えた理由で、避難者が入所を断れた事例もあります。地域の避難所人口と避難所の収容人数をある程度想定しておくことが大切です。

~3~